

協和運輸倉庫 ■ 電動リフトから電気提供

災害時支援へ実証開始

計5台に発信機取り付け

【宮城】協和運輸倉庫(高橋大輔社長、仙台市宮城野区)は、イーコース(菊竹玉記社長、東京都中央区)と連携して取り組んでいる電動フォークリフトに蓄えた電気を災害発生時に地域へ無償提供する実証実験を

スタートさせている。イーコースが開発を進める「電源ドナー」サービスを活用。協和運輸倉庫のリフトの蓄電状態を一元管理し、どこにどれだけの電気が存在するかを「見える化」しながら、イーコースが電

気提供の継続性を検証していく。

3月26日に、協和運輸倉庫本社(宮城野区苦竹)にあるリフト2台と、東営業所(同区福田町)の2台、仙台港営業所(同区港)の1台に、それぞれ発信機などを取り付ける工事を開始。調整を加えつつ、徐々に立地条件や時間帯、季節による変化などのデータを本格的に収集していく。

高橋社長は「我々は東日本大震災を経験した。この地域で仕事をしている以

上、当社が掲げる『共存共栄』『幸福追求』『地域貢献』の理念に基づき、物流を止めないための取り組みに努めていかねばならない」と話している。(今松大)